

新春市長対談

名古屋市の名城大学で、鹿児島県出身者として初めてノーベル賞を受賞された赤崎勇さん(名城大学終身教授・特別栄誉教授)と森博幸鹿児島市長の対談を行いました。

幼少期から旧制高校までの多感な時期を本市で過ごされた赤崎さん。社会に出られてからは、消費電力が少なく、長寿命な光であるLED(発光ダイオード)の研究に人生をささげることになります。青色のLEDは「20世紀中では実現不可能」ともいわれた難題でした。多くの研究者が断念する中、赤崎さんは青色の開発を諦めることなく長年研究され、60歳のとき世界初の窒化ガリウムpn接合型青色LEDを誕生させました。

青色の誕生で、すでに開発されていた赤色・緑色と光の三原色がそろい、照明で一般に使われる白色などあらゆる色をLEDで表現できるようになりました。現在は照明のほか、信号機、イルミネーション、スマートフォンのディスプレイなどでも使われ、私たちの生活になくてはならないものとなっています。



みなと大通り公園のイルミネーション

市長 本日は、新春対談の機会をいただき、ありがとうございます。

赤崎さん こちらこそ、ありがとうございます。

■鹿児島大空襲での壮絶な体験

市長 赤崎先生の青色LEDにちなみ、本日は青のネクタイをつけてまいりました(笑)。

さて、先生は、南九州市知覧町のお生まれです。私の父母も知覧の出身です。母の旧姓は赤崎です。先生がノーベル賞を受賞されたとき、親戚かと思いましたが、残念ながら血縁関係はなかったようです(笑)。

先生は、ノーベル賞や京都賞など多数受賞され、地元鹿児島市の英雄です。何歳まで知覧で過ごされたのですか。

赤崎さん 知覧にいたのは2歳くらいまでのよう
で、ほとんど記憶にありません。その後、鹿児島市に移り住み、戦争で自宅が全焼してしまったため、終戦後、衣服など必要なものを知覧の親戚をまわりもらったことを覚えています。

市長 赤崎先生は、大龍小の校訓「敬天愛人」と二

中(現・甲南高校)

の校訓「剛・明・直」

が鹿児島で学んだ

精神的支柱とな

り、戦時中も先輩

たちと交流を深め



甲南高校のノーベル物理学賞受賞記念碑

る中で、心身を鍛錬できたと著書で回想されています。その二中在学中の1945(昭和20)年6月に鹿児島大空襲があったのですね。

赤崎さん はい、空襲の前日まで学徒動員で佐世保にいました。ちょうど任務があり鹿児島市に帰ったのですが、空襲のときは城山の山頂にあり親友宅にいました。焼夷弾の火がすぐ近くで、親友の弟と必死に消しました。

何時間か頑張った後、なんとか消しましたが、市街地の方からガスがどんどん流れてきて、息苦しくなり、倒れこんでしまいました。翌早朝、父が迎えにきて「勇!」という声で、我に返りました。

た。そのまま倒れていたら、ガス中毒になっていたかもしれせん。付近で焼け残ったのは親友宅だけでした。

市長 8回にわたる空襲で鹿児島市の9割以上を焼失しました。

赤崎さん 自宅も全焼していました。ですから私の幼いときの写真は、肌身離さず持っていた2枚しかありません。

市長 そして終戦を迎えられたのですね。

赤崎さん 二中4年の8月に終戦となりました。口には出しませんが、戦況は厳しいと感じ



焼け野原となった本市(撮影:平岡正三郎氏)

じており、正直ほっとしました。焼け跡で2回ほどグラマン戦闘機の機銃掃射を受けました。多くの年配の方が同じような体験をされています。また私より年長の方が多数、戦病死されています。どんな事情があっても、戦争は絶対にしてはいけません。私の心からの願いです。

■光への憧れ

市長 戦争を知らない世代には想像できないほど壮絶な体験をされたのですね。

赤崎さん 戦災後、鹿児島市の川上に疎開しており、当時伊敷に移転していた二中には片道2時間半ほど歩いて通っていました。家に帰っても教科書はなく、古い辞書を借り、魚油を使った小さなランプの灯りで見ていました。とにかく光が欲しかったのです。森市長はご存じないかもしれませんがね。

市長 はい。戦後(昭和24年)生まれです。

赤崎さん 戦時中は、灯りが絶対に外に漏れないように室内を暗くしていました。私だけでなく、同世代の人は灯りに対して特別な思いがあったと思います。

市長 学生時代の多感な時期に体験されたことがその後の人生に大きな影響を与えたと思います。戦時中の体験が光の発明につながったのかもしれませんね。



赤崎 勇名城大学終身教授・特別栄誉教授

赤崎 勇さんの主なプロフィール

1929(昭和4)年1月30日

南九州市知覧町生まれ ※4人きょうだいの次男

1941(昭和16)年

大龍尋常高等小学校(現・鹿児島市立大龍小学校)卒業

1946(昭和21)年

鹿児島県立第二鹿児島中学校(現・県立甲南高等学校)4年修了、第七高等学校造士館理科甲類入学

1949(昭和24)年

第七高等学校理科卒業、京都大学理学部入学

1952(昭和27)年

京都大学理学部卒業、神戸工業(現・富士通)入社

1959(昭和34)年

名城大学工学部助手(後に講師、助教授)

1964(昭和39)年

(株)松下電器産業(現・パナソニック)(株)東京研究所基礎第四研究室長・半導体部長

1981(昭和56)年

名城大学工学部教授

・1985(昭和60)年、

「高品質窒化ガリウム単結晶」の世界初の実現

・1989(平成元年)、窒

化ガリウムpn接合型

青色LEDの世界初の実現

1992(平成4)年

名城大学定年退官(現在、同大学特別教授・名誉教授)、名城大学理工学部教授(現在、同大学終身教授・特別栄誉教授)

2004(平成16)年

文化功労者顕彰

2009(平成21)年

京都賞受賞

2011(平成23)年

エジソン賞受賞

2014(平成26)年

文化勲章受章

※詳しくは3面をご覧ください

2015(平成27)年

鹿児島市が市民栄誉賞を、

鹿児島県が県民栄誉表彰

を贈呈

(注)他にも著名な賞を多数受賞されてい

ています



鹿児島市民栄誉賞授賞式



名城大学での研究の様子